木曽川水系河川整備計画（変更 原案）に対して
関係住民の方よりいただいたご意見

平成26年11月26日

中部地方整備局

関係住民の方よりいただいたご意見

	意見をいただいた方法		いただいたご意見	いただいたご意見に対する考え方	記載箇所 目次
1	パブリックコメント	インターネット	新丸山ダムは、木曽川本川にあり、流域面積が2409km2と大きく、犬山地点効果量が3200m3/sと既設岩屋・阿木川・味噌川ダム(犬山地点効果量3ダムで800m3/s)の12倍（3200÷800×3）と治水効果がきわめて大きい。木曽川流域は、近年の少雨化傾向により、渇水が頻発し、平成6年には約300億円の渇水被害が発生している。このため、新丸山ダムの不特定容量1500万m3により、成戸40m3/sを確保し、利水安全度の向上が必要です。予備放流方式の採用により堤高が4.1m低下し、コスト・工期とも縮減が可能となるため、新丸山ダムの計画変更の河川整備計画案を早急に決定し、木曽川流域の治水安全度・利水安全度の向上をお願いします。また、木曽川の丸山ダムでは、昭和58年9月28日洪水で、8200m3/s流入量があり、新丸山ダムの予備放流操作、洪水調節操作を確実に行うためのソフト・ハードの整備を万全に行って頂きたい。	木曽川水系河川整備計画においては、戦後最大洪水となる昭和58（1983）年9月洪水に対して、新丸山ダム及び既設ダムにより約4,000m3/sの洪水調節を行う計画としています。また、新丸山ダムでは不特定容量として15,000千m3を確保し、1/10規模の渇水時においても、既設ダムの不特定補給と合わせて、既得取水の安定化を図るとともに、木曽成戸地点において河川環境の保全等のために必要な流量の一部である40m3/sを確保する計画としています。 新丸山ダムの建設に着手し、早期完成に向け着実に事業を推進していきます。 予備放流方式については、新丸山ダムの特徴を踏まえつつ、安全な洪水調節、確実な洪水警戒態勢の確立、河川利用者の安全確保に努めていきます。	第3章 第1節 第1項 P3-6 第2項 P3-22